

核戦争防止 兵庫医師の声

第99号 2017年10月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024

神戸市中央区海岸通1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会内

電話 078(393)1807

振替 01130-6-57830

第36回総会を開催

歴史的な核兵器禁止条約が実現

富田宏治関西学院大学教授が講演



反核医師の会総会（右）で記念講演を行った富田宏治氏（左）

核戦争を防止する兵庫県医師の会（反核医師の会）は、7月29日に兵庫県保険医協会会議室で第36回総会を開催した。関西学院大学法学部教授・原水爆禁止世界大会起草委員長の富田宏治氏が、「核兵器禁止条約の歴史的意義と課題」と題して記念講演を行った。医師、歯科医師、市民ら43人が参加した。

富田氏はまず、7月7日に122カ国の賛成で採択された核兵器禁止条約の前文と条文について解説した。条約前文に、「被爆者の受け入れがたい苦痛と被害に留意する」とあるように核兵器の非人道性を強調し、被爆者への支援を義務としているなど被爆者の悲願を反映したものであるとした。そして核兵器に関わるほぼすべての活動に加えて、核兵器による威嚇も禁止するなど、核抑止力論も明確に否定した内容であると解説した。

さらに、核保有国とその同盟国が、核保有国が参加しないこの条約は無意味だと強く反対していることに触れ、核兵器の保有が違法化されたことにより、核兵器の放棄を求める国際世論が高まることへの危機感の表れに他ならないとした。条文には、核兵器の放棄についても手続きが定められていることを紹

介し、これからは国際的な世論と運動で、核保有国に条約への参加を迫っていくことが求められているとした。

日本政府が米国の核抑止力に依存し、条約に反対の立場を明確にしていることについては、唯一の戦争被爆国である日本政府が条約に署名するのは当然だと安倍政権の姿勢を批判。政府の態度を改めさせることは日本国民の国際的な責務であるとした。

総会議事では、郷地秀夫先生が代表に、近重民雄先生が運営委員長にそれぞれ再任した。議論では、郷地代表が福島原発事故による甲状腺への放射線の影響について報告し、医師として放射線の人体への危険性を発信する活動を進めることを確認した。2面から2016年度活動報告と2017年度活動方針を掲載する。

2面へつづく

核戦争を防止する兵庫県医師の会 2016 年度活動報告と 2017 年度活動方針

(1) 本会は、設立総会開催 (1982 年 7 月) から 35 年を迎えました。

設立以来、医師歯科医師の団体として、非核・反核運動に取り組んできました。諸活動としては、会報「医師の声」の発行、反核パネルや反核リーフレットの製作・普及、反核平和映画の製作協力や貸し出し、被爆者の会への援助、各地の医師の会との交流、IPPNW (核戦争防止国際医師会議) の世界大会と地域会議への代表派遣、県内の反核平和団体との協力などを行ってきました。また、本会独自の反核展の開催などを通じ、核兵器廃絶を願う草の根の団体として患者・県民に医師の立場からの働きかけを行うなど、継続して活動してきました。結成当時 198 人であった会員数は、86 年には 500 人を超えましたが、高齢・病気等による会員の退会などで、現在 226 人となっています。

(2) 2016 年度の活動

- ① 第 35 回総会では総合研究大学院大学名誉教授の池内了氏を講師に、記念講演「加速される『軍学共同』」を開催し、104 人が参加しました。
- ② 2016 年原水爆禁止世界大会に歯科医師・医療スタッフら 6 人、平和行進にも 5 人が参加し、県下の様々な平和運動との協力・共同を行いました。
- ③ 「第 27 回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 宮城」には、5 人が参加しました。
- ④ 保団連の米軍横田基地視察会に 4 人が参加しました。保団連非核・平和部会、全国反核医師の会大会に役員派遣し、協力しました。
- ⑤ 辺野古新基地建設の工事中止と共謀罪法案の廃案を求めた 6 月 10 日の国会包囲行動に役員を派遣しました。
- ⑥ 原爆症認定集団訴訟では、引き続き事務所・連絡先を引き受けるなど、支援ネットワークに協力し積極的役割を果たしました。郷地秀夫代表が各地で講演活動と裁判所への意見書の提出を行いました。
- ⑦ 北朝鮮による核実験とミサイル発射への抗議と、共謀罪法案に反対する声明を発表しました。
- ⑧ 非核「神戸」方式 42 周年記念集会 (2017 年 3 月 18 日) に参加しました。
- ⑨ 非核の政府を求める兵庫の会にも引き続き協力し、市民学習会「徹底討論! 第 2 弾 どうする原発、日本のエネルギー」(澤田哲生・東京工業大学助教、吉井英勝・元衆議院議員)、市民学習会「それってどうなの? 沖縄の基

地の話。」(屋良朝博・元沖縄タイムス論説委員)、人形劇映画「猫は生きている」上映会 (トーク・つげくわえ)、市民学習会「ポピュラー文化からみた『核のイメージ』史」(山本昭宏・神戸外国語大学准教授)、市民学習会「なぜ戦争は終わらないか? 民族・紛争・国際政治を考える」(千田善・国際ジャーナリスト)、市民学習会「命に国境はない 高遠菜穂子さんイラク最新報告会」(高遠菜穂子・イラク支援ボランティア) を行いました。また、総会では、総会記念講演「非核芸術のお誘い」(講師: 岡村幸宣・原爆の凶丸木美術館学芸員) に協力しました。郷地代表、小泉運営委員が、常任世話人を務めています。

⑩ 九条の会兵庫県医師の会の白井聡氏講演会、西谷文和氏講演会の開催に協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みました。

⑪ ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名に取り組みました。

⑫ 兵庫民医連主催の福島原発事故の避難者検診に協力しました。

(3) 情勢

3 月 27 日より、核兵器のない世界を実現するため 110 以上の国々が参加する参核兵器禁止条約制定のための交渉会議が国連で開催され、7 月 7 日に歴史的な条約が、122 カ国の賛成で成立しました。この会合は、昨年 10 月に国連総会第一委員会にて採択された核廃絶のための交渉開始を求める決議により開始したものです。しかし、日本政府は会議初日のハイレベル会合には出席したものの、その後不参加を表明しました。日本政府はその理由として、交渉会議が核兵器国と非核兵器国の対立を深めるものであるためとしています。核兵器国と非核兵器国の「橋渡し役」というこれまで政府が主張してきた役割すら、自ら放棄するものです。核抑止力論に依存する核保有国の要求に追従する日本政府は、唯一の戦争被爆国としての立場をも放棄するもので、決して認められません。

核兵器のない世界を目指す市民の願いに反して、北朝鮮は核兵器の開発と一体のものとして進めてきた弾道ミサイルの発射を繰り返しています。北朝鮮による弾道ミサイルの発射は、北朝鮮に対してミサイルの発射の中止を求めた国連安全保障理事会決議に違反するものであり、東アジアはもちろん世界の安全を脅かすものです。北朝鮮の弾道ミサイル発射と核兵器開発に反対する運動を強めましょう。

2面からつづく

日本では、安倍首相のもとで、特定秘密保護法、集団的自衛権行使を容認する憲法違反の安保関連法制（戦争法）の成立に引き続いて、共謀罪法案を強行採決しました。「テロ対策」に名を借りた共謀罪法案は、犯罪を計画の段階で処罰するもので、これまでの刑法の法体系を根本から覆すものです。政府答弁では、共謀罪の対象となるのは組織的犯罪集団に限定され、一般の市民は対象にならないとしましたが、市民運動団体が組織的犯罪集団か否かを調べることを目的として、警察による監視が日常的に行われることは明白です。警察による日常的な市民の監視を招き、市民運動の侵害や萎縮を引き起こす共謀罪法の廃止に向けた運動に引き続き取り組みましょう。

安倍政権は、全国各地で原発再稼働を進めています。関西電力は新規制基準に基づき高浜原発3・4号機を再稼働させました。この再稼働は、大阪高裁が新規制基準について「不合理なものとはいえない」と判断し、昨年3月の大津地裁（山本善彦裁判長）の運転差し止めの仮処分を覆したことによるものです。しかし、新規制基準は、原子力規制委員会の田中俊一委員長自らが「絶対安全とは申し上げない」と表明したもので、欧州の安全規制と比較しても、とても最新・安全とは呼べないものです。原発は国民の命と健康を脅かすものです。現在稼働中のすべての原発を直ちに停止させ、すべての原発を廃炉とすることを強く求めていきましょう。

安倍政権は、辺野古新基地建設のための埋め立て工事を強行しました。周辺住民の反対の声を無視して、工事を強行する姿勢は決して許せません。核兵器も米軍基地もいらないという沖縄県民の思いに寄り添い、米軍基地のない沖縄を実現するため、新基地建設反対・普天間基地の無条件撤去の運動に引き続き取り組みましょう。

広島・長崎の被爆者の多くを原爆症と認めない国の姿勢に対して、全国で多くの被爆者が原爆症認定を求めて「ノーモア・ヒバクシャ訴訟」を闘っています。121人の提訴者のうち、地裁では55人が勝訴したものの、高裁では持病や加齢を理由に放射線の影響を軽視する不当な判決が出されています。これは国が原爆症認定集団訴訟に敗訴しながら、判決を無視した基準で審査を続けているためです。医師・歯科医師の団体として、放射線の影響の重大さを訴え、認定を拒む政府に反対する運動に取り組みしましょう。

平和を願う国民の思いを無視し、民主主義をないがしろにする安倍政権に対抗する運動をいっそう強めましょう。

(4)2017年度の重点課題

①交戦国の核攻撃を受けた唯一の被爆国の医師として、また、人命を守る医師の社会的責務を自覚し、医師らしい創意ある活動を進めます。

②被爆者との交流と援助活動を進めます。特に被爆者医療の取り組みを重視し、放射線に正しい知見を持つ医師の養成に努めます。ノーモア・ヒバクシャ訴訟と福島原発事故被災者への検診活動を支援します。

③核実験に反対し、核兵器廃絶を求める国際的世論と共同し、運動していきます。

④国民の命と健康を脅かす原発に反対する運動を進めます。安倍政権の再稼働推進政策に対抗し、すべての原発を廃炉とするよう求めて行きます。

⑤講演会の開催など、医師の会として運動を社会的にアピールする取り組みを進めます。特に医療関係者と次世代への「語り継ぎ」を課題に、医学生などへの働きかけや市民向けの企画も随時開催していきます。

⑥2017年に東京で開催される「第28回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 東京」に参加します。

⑦保団連が開催する基地視察会に参加します。

⑧2017原水爆禁止世界大会、国民平和大行進への参加を呼びかけます。

⑨非核の政府を求める会・非核神戸方式記念集会実行委員会など県下の反核諸団体との交流・協力を一層強め、これらの団体の取り組みの成功にも協力します。

⑩九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みます。

⑪会報「医師の声」の定期発行と、学習・講師派遣活動、反核DVDや原爆パネルの貸し出しなどを積極的に進めます。

⑫会員を増やすため引き続き加入を呼びかけます。

■創立以来の会員数

1982年7月	198人	1983年7月	363人
1984年7月	385人	1985年7月	408人
1986年7月	506人	1987年7月	507人
1988年7月	538人	1989年7月	543人
1990年7月	535人	1991年7月	519人
1992年7月	504人	1993年7月	489人
1994年7月	459人	1995年7月	446人
1996年7月	422人	1997年7月	419人
1998年7月	412人	1999年7月	404人
2000年7月	390人	2001年7月	380人
2002年7月	369人	2003年7月	363人

●反核医師の声● (4)

3面からつづく		2010年7月	265人	2011年7月	257人
2004年7月	350人	2005年7月	333人	2012年7月	255人
2006年7月	303人	2007年7月	291人	2014年7月	243人
2008年7月	264人	2009年7月	253人	2016年7月	231人
				2013年7月	246人
				2015年7月	234人
				2017年7月	226人

■核戦争を防止する兵庫県医師の会運営委員 (下線は新運営委員)

代 表	郷地 秀夫	委 員	加藤 擁一	委 員	西山 裕康
運営委員長	近重 民雄	"	川西 敏雄	"	宮崎 義彦
委 員	池内 春樹	"	武村 義人	"	森 達哉
"	池本 恒彦	"	田中 孝明	"	柳井 映二
"	井村 春樹	"	桃原 久枝	"	足立 了平
"	小泉 勇	"	松岡 泰夫	"	佐々木 徹
"	幸原 久	"	坂口 智計	"	檉林 義雄
"	水間 美宏	"	高原 周治	"	大森 昭輝

■ 2016年度会計報告 (2016年7月1日~2017年6月30日)

収入の部		支出の部	
会費	¥ 385,000	総会	¥ 141,000
総会懇親会参加費	¥ 55,000	会議	¥ 76,400
書籍売上	¥ 32,580	ニュース発行	¥ 29,582
残高発行手数料返金	¥ 1,028	書籍購入	¥ 32,240
		全国反核医師の会機関誌	¥ 123,660
		渉外 (原爆症支援ネット・はだしのゲンを広める会・平和と戦争展)	¥ 70,000
		振込手数料	¥ 4,620
		残高発行手数料	¥ 1,028
繰越金	¥ 303,708	繰越金	¥ 298,786
合計	¥ 777,316	合計	¥ 777,316

〈反核医師の会の新年度会費納入をお願いします〉

反核医師の会は総会を開催しました。決定した新年度の方針に基づき活発に活動し、集会などの様子はニュースで報告してまいりますので、会員の皆様は新年度会費納入をお願いいたします。(今号に振り込み用紙を同封しております)

運営委員就任あいさつ

被爆者の苦難に思い寄せて核兵器に反対

東神戸病院・水間美宏

新たに運営委員に就任した水間美宏先生から、就任にあたってあいさつが寄せられたので紹介する。

このたび、郷地秀夫代表のお誘いにより運営委員になりました。

とは言っても、小学生の時に両親に連れられて広島原爆ドームや資料館に行ったり、大学を卒業してすぐに勤め先の病院で原爆に関する絵画展を開催したくらいで、知らないことばかりです。

先日の反核医師の会の総会では、7月7日に国連会議で採択された核兵器禁止条約について、関西学院大学の富田宏治先生の講演をお聞きました。そして条約の意義として、まず核兵器使用の被害者（ヒ

バクシャ）と核実験の影響を被った被災者の受け入れがたい苦難と被害に留意したこと、また核兵器のいかなる使用も人道の原則および公的良心の命ずることに相反するものと再確認されたことを学びました。

私も被爆者の苦難に思いをめぐらせるよう努めるとともに、人道と良心に反する核兵器に反対していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。（東神戸病院内科医師、日本キリスト教団東神戸協会会員・水間美宏）



I P P N W 世界大会

歴史的な情勢持ち帰る

兵庫県保険医協会が坂口評議員を代表派遣

兵庫県保険医協会は、9月4日から6日にかけてイギリス・ヨークで開催される IPPNW 世界大会に坂口智計運営委員を代表派遣することを決定した。坂口運営委員は8月26日の兵庫県保険医協会第1063回理事会であいさつし、世界大会へ参加する意気込みを語った。

坂口運営委員は理事会で、世界大会へ向けて、核兵器禁止条約が作られた歴史的な情勢での大会に医療者として参加できることうれしく思うと感謝の意を表明し、世界中の医療者の取り組みについて学び、帰国後は理事会の場で改めて報告を行いたいと意気込みを語った。西山裕康協会理事長が、これまでに協会に寄せられた10万円の募金を手渡した。

理事会では、加藤擁一協会副理事長が IPPNW 設立から現在までの活動について説明し、出席



会員から寄せられた募金を西山裕康協会理事長（右）から受け取る坂口運営委員（左）

した保険医協会役員にカンパの呼びかけを行い、4万500円が集められた。保険医協会はこれまでも2012年の広島大会などに役員を派遣している。

核兵器廃絶へ歩いて訴え



(左) 神戸市内の行進に参加した、左から桃原久枝・武村義人・松岡泰夫各運営委員
(右) 明石市内で行進した榎林義雄運営委員(中央前)とスタッフ

8月4～9日に広島・長崎で開催された「原水爆禁止世界大会」をめざし、核兵器のない世界への転換を訴え、日本全国の市町村をアピールして歩く「国民平和大行進」が、7月4日から16日にかけて、兵庫県内を行進した。武村義人・小泉勇・榎林義雄・松岡泰夫・桃原久枝各運営委員が参加した。

小泉理事は8日の伊丹市役所前で激励あいさつに立った。10日には、武村・松岡・桃原各運営委員が医院スタッフとともに中央区を歩いた。11日には榎林運営委員もスタッフとともに明石市内を行進した。参加した小泉運営委員のあいさつと榎林歯科スタッフの感想文を掲載する。

前回から丸一年経ち、今年も皆さんの元気な姿を見ることができました。今年は皆さんと共に素晴らしい報告ができます。昨日、国連総会で世界中の122ヶ国の賛同で、核兵器禁止条約が実現したことです。私も長い間生きてきて良かったと感じています。



伊丹市役所前であいさつに立つ小泉勇運営委員

すでに実現した地雷禁止条約と同様、その使用だけでなく、開発・生産・保有が条約で禁止され、長い間原爆投下で苦しんできた被爆者(ヒバクシャ)の願いが報われることを皆さんと共に喜びたいです。

核保有国はこの条約に参加しておらず、更に唯一の被爆国である日本の安倍政権も参加していませんが、皆さんと共にヒバクシャを守り、これからも希望を持って、日本が参加するように力を合わせましょう。【伊丹市・小泉勇】

核廃絶に興味持つきっかけに

今回初めて平和行進に参加しました。東京から広島まで核兵器の廃絶や平和を呼びかけながら歩く活動で、毎年行われ、今回で60回目ということも初めて知りました。

雰囲気や人数、どんな道を歩いていくのか気になることがたくさんありました。

明石市役所前から松江公園まで歩きましたが、学校から手を振ってくれた子どもたちや、ちらちらとこちらを見ながらすれ違う人を見て、多くの人が興味を持つきっかけになっていると実感しました。

また、年配の参加者が多いことも印象的でした。未来に関わる大きなテーマなので、同世代の若い人にも興味を持つきっかけになれば嬉しいと思いました。

強い日差しの中歩くのは本当に大変でしたが、明石の知らない道やお店も発見でき、楽しく貴重な体験になりました。

【明石市・榎林歯科スタッフ 藤原まゆみ】

原水爆禁止 2017 世界大会

あなたはどこの国の総理ですか



(左) 開会総会会場で寄せられた折り鶴を持つ川西敏雄運営委員（前列右）と榎林歯科スタッフ
(右) 閉会総会で開業医宣言を英語で紹介した長崎県保険医協会の本田孝也会長

保団連も実行委員会に参加する原水爆禁止2017世界大会が、8月4日から9日にかけて広島市内・長崎市内で開催された。7日から9日の長崎会場には、協会の川西敏雄運営委員、榎林歯科（明石市）の職員3人が参加し、武村義人運営委員、落合愛子先生、広川恵一先生からの折り鶴を平和公園に供えた。参加した川西運営委員の参加記を掲載する。

「あなたはどこの国の総理ですか?」「今こそあなたが世界の核兵器廃絶の先頭に立つべきです」

この発言は去る8月9日、被爆者団体が要望書を手渡す場で、川野浩一氏（長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会議長・77歳）が安倍首相に言い放った言葉です。その時首相からは明確な返答はなかったそうです（MSNニュースなどより）。

唯一の戦争被爆国であるにもかかわらず、核兵器禁止条約の交渉に参加せず、署名しようとしないうこと、また年齢から推し量っても、よほど腹に据えかねたのでしょう。昨年にはオバマ大統領（当時）が核兵器の先制不使用宣言を検討するにあたり、あるうことか日本政府が待ったをかけました。とても許せることではありません。

このような情勢下で、今回の世界大会は開始されました。7日の開会総会では、核兵器禁止条約の実現に大きな役割を果たした、国連軍縮問題担当上級代表の中満泉氏があいさつされました。被爆者の長

年の運動に敬意を表し、核兵器のない世界のため努力したいと語られました。

9日の閉会総会では、本田孝也・長崎協会会長が発言され、保団連の「開業医宣言」を紹介し、人命を守る医師として、戦争にも核兵器にも反対していかなければならないと力強く訴えられました。

『「非核神戸方式」（寄港する外国艦船に非核証明書を求める）を全国に」というゼッケンを着けたまま長崎市内を歩くと、数名から「それは何?」と質問を受けましたので、その場で懇切丁寧に説明をしました。

預かった千羽鶴を、平和公園の「長崎の鐘」に供え、核兵器のない世界の実現を心から願いました。



北朝鮮による核実験に抗議

反核医師の会は、北朝鮮が9月3日に6回目となる核実験を強行したことに對して、9月6日に開催した運営委員会で、抗議声明を採択し、関係機関に送付した。採択した抗議声明の全文を紹介する。

抗議声明

2017年9月6日

核戦争を防止する兵庫県医師の会

北朝鮮の核実験に對し強く抗議する

北朝鮮は9月3日、6回目となる核実験を強行した。弾道ミサイルの発射に續いて、核弾頭ミサイルの開発を目的とした核実験を実施したことは、東アジアと世界の軍事的緊張を高めるものであり強く抗議する。

北朝鮮の核実験、核開発は、この間の国連安保理の諸決議や朝鮮半島の非核化をめぐる合意に背くものである。

世界では、NPT再検討会議や国連において非人道的な兵器である核兵器の廃絶を求める声は世界の大部分を占めており、7月には歴史的な核兵器禁止条約が成立するなど、核兵器廃絶へ向けた取り組みはますます加速している。

今回の核実験は、世界の流れである「核兵器のない世界」の実現に明らかに逆行するもので、被爆者をはじめ核兵器廃絶を切望する世界の多くの人々の期待や願いを裏切るものであり、断じて容認できない。

われわれは、唯一の被爆国である日本の、命と健康を守る医師・歯科医師として、アジアと世界の平和を脅かす北朝鮮の指導部に対して、国連安保理決議を順守し、核開発計画を断念し、今後一切の核実験をやめ、6カ国協議の共同声明に立ち返り、国際社会の責任ある一員としての道をすすむことを強く求める。

また日本政府には、北朝鮮との軍事衝突になれば国民が核兵器の脅威にさらされる危険性があることを自覚し、北朝鮮に對し核兵器の放棄を求めるとともに、問題の解決に向けた6カ国協議の再開と国際的対話を作り出す努力、あらゆる国の核実験に反対することを強く求める。

北朝鮮によるミサイル発射に対して抗議

反核医師の会は、北朝鮮が弾道ミサイルを8月29日に発射したことに對して、9月6日に開催した運営委員会で、抗議声明を採択し、関係機関に送付した。採択した抗議声明の全文を紹介する。

抗議声明

2017年9月6日

核戦争を防止する兵庫県医師の会

北朝鮮のミサイル発射に強く抗議する

北朝鮮は、8月29日午前5時57分（日本時間）、中距離弾道ミサイルを西岸の順安から事前通告なしに発射した。米領グアム沖へのミサイル発射計画を公表するなど、東アジアでの緊張が高まっている中での、今回のミサイル発射と軍事力による周辺諸国への威嚇は、戦争に反対し平和を愛する諸国民の願いに真っ向から反するものである。そればかりか朝鮮半島の非核化にむけた国際社会の努力を損ない、東アジアの平和と安定を大いに脅かすものである。今後すべての核実験とミサイルの発射をやめるよう強く要求する。

北朝鮮によるミサイル発射は、2009年6月12日に全会一致で採択された国連安全保障理事会決議1874号を始め、累次の安保理決議、声明に違反している。同決議は、北朝鮮に対し、「いかなる核実験または弾道ミサイル技術を使用した発射もこれ以上実施しないことを要求する」と、弾道ミサイル発射の中止を強く求めている。北朝鮮は国連加盟国の一員として、この決議を尊重し、軍事的挑発を避け、平和的な問題解決のため、2005年の6カ国協議の共同声明に立ち返り、核兵器と弾道ミサイルの開発を放棄するべきである。

こうした情勢の下、日本政府は、Jアラートや宣伝で国民の北朝鮮への脅威をみだりに煽り、「安全保障法制」をもとに防衛装備を米国から購入するなどの軍事大国化を進め、ミサイル発射に呼応して迎撃体制を誇示することにより北朝鮮をいたずらに刺激するのではなく、北朝鮮との軍事衝突を避け、平和的な解決に向けた対話の努力を進めるべきである。

われわれは、唯一の被爆国である日本の、命と健康を守る医師・歯科医師として、世界の平和を脅かすこれらの動きに強く反対し、各国が国際社会の責任ある一員としての道をすすむことを強く求める。

芦屋非核平和都市宣言 32 周年・被爆 72 周年

非核平和祈念のつどい

2017年10月14日(土) 14:00~16:00

上宮川文化センター・ホール (予定)

長崎での被爆体験を語る



長崎の原爆で児童 1300 人が命を落とした山里小学校で奇跡的に生き残った 37 人の手記「原子雲の下に生きて」の一人で 83 歳の深堀さんからお話いただきます。

お話 **深堀 輝行** さん

(写真の前から 2 列目、右から 3 人目)

核兵器禁止条約の歴史的意義と課題～禁止から廃絶へ～

国連では 7 月 7 日には核兵器禁止条約が採択されました。核兵器禁止条約の歴史的意義と課題について、最新情報をもとに原水爆禁止世界大会起草委員長の富田宏治さんに、核兵器廃絶の展望をお話いただきます。



お話 **富田 宏治** さん

(関西学院大学教授、原水爆禁止世界大会起草委員長)

<プロフィール>

関西学院大学法学部教授。政治学者。専攻は日本政治思想。原水爆禁止世界大会宣言起草委員長を務める。反核平和問題、大阪都構想問題はじめ日本の政治問題についての精力的に講演している。

主催 芦屋非核平和のつどい実行委員会

代表 山本 緑 事務局 福田千種 TEL&FAX 0797-31-6634

共催 芦屋市原爆被害者の会

協賛 原水爆禁止兵庫県協議会/非核の政府を求める兵庫の会/

平和と民主主義をすすめる芦屋西宮の会

後援 芦屋市/芦屋市教育委員会(申請中)



九条の会・兵庫県医師の会 市民シンポジウム

沖縄から考える 改憲と国防

11/25[±]

14:30~17:00 [開場14:00]
兵庫県農業会館 10階 会議室

自民党が来年6月に9条改憲発議を目標にし、沖縄県民の反対を押し切って辺野古新基地建設が強行されるなど、「戦争をする国づくり」が進められようとしています。そもそも、憲法を変えなければ国は守れないのか？沖縄に米軍基地がなければ国は守れないのか？

安全保障のスペシャリスト、基地に詳しいジャーナリスト、沖縄基地を知る医師をお招きして、日本の国防を考える上でのそもそもの疑問に答えながら、安全保障の現実と沖縄への基地負担押しつけの実態から、改憲論議の不毛性を突いていきます。

パネル報告

命を守る医師が体験する 沖縄米軍基地の人権侵害



なかにし つねお
仲西 常雄氏
 医師、社会福祉法人
 沖縄にじの会理事長
 内科医師、糖尿病専門医、米軍占領下の沖縄の医療を体験した最後の世代。沖縄の民医連創設に関わり、沖縄協同病院院長、沖縄医療生協理事長、沖縄民医連会長を歴任。社団法人理事長、2つの特養ホームを運営、沖縄県生活と健康を守る会連合会会長として活動中。

誤解だらけの沖縄・ 米軍基地のこと



やら ともひろ
屋良 朝博氏
 元沖縄タイムス社会部長
 フリーランスライター。
 1962年北谷町生まれ。フイリピン大学を卒業後、沖縄タイムス社で基地問題担当、東京支社、論説委員、社会部長などを務め2012年6月退社。「砂上の同盟」で平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞。

亡国にすすむ 安保政策と改憲論



やなぎさわ きょうじ
柳澤 協二氏
 元内閣官房副長官補
 東京大学法学部卒。防衛庁に入庁し、運用局長、防衛研究所長などをへて、2004年から2009年まで内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当)。現在、国際地政学研究所理事長、新外交イニシアティブ理事、自衛隊を活かす:21世紀の憲法と防衛を考える会代表。



コーディネーター

たかはら しゅうじ
高原 周治氏
 元兵庫県医師会代議員会議長

1973年北海道大学卒業後、勤務医として兵庫医大、東京女子医大他に勤務。1981年からミュンヘン小児センター留学。1986年、高原クリニック開院。2008年から2013年まで尾崎市医師会会長。元兵庫県医師会代議員会議長。

参加費 500円 **定員 200人**(事前申し込み制)

主催 九条の会・兵庫県医師の会 共催 兵庫県保険医協会、兵庫県民主医療機関連合会、核戦争を防止する兵庫県医師の会、九条の会・医療者の会(全国)

30th Anniversary
反核医師のつどい
 in 東京

第28回



結成30年
 被爆の実相に立ち返り、核なき世界を

日時 2017年 **11月4日(土)** / **11月5日(日)**
 14:00~20:30 / 9:00~12:00

会場 **平和と労働センター 全労連会館**
 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 TEL 03-5842-5610

参加費 医師・歯科医師…5,000円 医療関係者…2,000円 医・歯学生…1,000円
 *1日参加でも参加費は変わりません

1日目 11月4日(土) 14:00~20:30

- 14:00~14:15 開会挨拶
- 14:15~14:30 アイラ・ヘルファンド氏/ラフ氏からのビデオメッセージ
- 14:30~15:00 反核医師の会30年のあゆみ 中川 武夫代表世話人
- 15:00~17:00 シンポジウム『核兵器禁止条約から核兵器の廃絶を』
- 17:00~17:30 IPPNWヨーク大会の報告
- 18:30~20:30 レセプション(2Fホール※つどい会場と同じです)



日本原水爆被害者団体協議会
 事務局次長
藤森 俊希氏



ピースポート
 共同代表
川崎 哲氏



ヒバクシャ国際署名
 キャンペーンリーダー
林田 光弘氏

2日目 11月5日(日) 9:00~12:00

- 9:00~11:00 分科会
- 第1分科会
『ヒバクシャは語る、ヒバクシャから学ぶ』
語り部 児玉 三智子さん ほか
- 第2分科会
『避難指示解除後の福島は今』
講師 松本 純 医師 ほか
- 11:00~12:00 全体集会

主催 核戦争に反対する医師の会 / 『第28回 核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどいin東京』実行委員会